

パルマ・リッジーナの伝説

PALMA RIGGINA

オルティージャのおとぎ話



パルマ・リッジーナの伝説

1・暗がりに落ちた種

オルティージャに、いつも日かげの中庭がありました。



私はアレトゥーサ。この水を守っているの。

ある日、ツバメが海から種を運んできました。



種は二つの石の間に落ちて……耳をすませました。



負けないで、小さな種！

種は、自分にできるたった一つの方法で答えました。



大きくなるよ！

でも、光は屋根の向こう。遠くにありました。



光への道を見つけなきゃ。

そこでヤシの木は体を曲げ、光をさがし続けました。



ゆっくりでいい……きっとできるよ！

パルマ・リッジーナの伝説

2・石たちの声

中庭は、ひびやしめり気、こだまを通して、そっと語りました。

どの石にも物語があるんだ。

約束も、別れも、帰ってきた日のことも、壁の間にかくれていました。

毎晩、ヤシの木は屋根と屋根の間にすき間をさがしました。

もう一度、やってみよう。

石たちは、ヤシの木が育つのを見守りました。

行かないで！

行っておいで！

気をつけて！

さがして！

かげも、そばにいてくれました。中庭には希望が育っていました。

自分の道を見つけるために、曲がるんだ。

パルマ・リッジーナの伝説

3・ヘリオスのおくりもの

ある朝、太陽のヘリオスがオル
ティージャの上を通りました。

この島には、た
くさんの物語が
あるなあ！

日かげで光をさがすヤシの木が見え
ました。

見つけたよ、小さ
な勇気ある子。

ヘリオスは、そのねばり強さと勇気に心を動かされました。

光は、光をさ
がす者が好き
なんだ。

そして、約束のように小さな、ひとすじの光をおくりました。

すべてを照らす光ではありません。で
も、育ち続けるには十分でした。

来てくれ
た！

光は毎日、数時間だけ戻ってきまし
た。短くても、かならず。

明日も待っ
ているよ。

パルマ・リッジーナの伝説

4・葉っぱの塔

ヤシの木はぬくもりを感じ、また勇気がわいてきました。

もう、どこへ
進めばいいか
分かる！

幹は曲がったまま。でも、新しく伸びるところは空へ向かい始めました。

もう、さがすことをこわがりませんでした。

光は待っただけじゃだめ。自分でつかむんだ！

葉っぱの鐘の塔のように、さらに高く伸びました。

島の下で、アレトゥーサが葉ずれを聞きました。

この音、知っているわ……

泉は、願いの音を聞き分けられるのです。

願いが、自分の道を見つけた音ね。

パルマ・リッジーナの伝説

5・中庭の女王

中庭には、声や約束、笑顔が集まりました。

だれかが帰ってくるたび、大切にしまう物語が生まれました。

ヤシの木はその声を集め、風にあずけました。

通りかかる人たちは、笑って言いました……

ぼくが運んでいくよ。

Ccà si fa cuttigghiu!

中庭のやさしいおしゃべりに囲まれ、ヤシの木は女王になりました。

こうしてつけた名前は……

**Cuttigghiu
dâ Palma Riggina**

意味は「女王ヤシの中庭」。

シチリア語のcuttigghiuには、そんな意味も。

パルマ・リッジーナの伝説

6・声が去った日々

やがて、人々は耳をかさなくなりました。一度にではなく、少しずつ。



いすは空っぽになり、窓もあまり開かなくなりました。



人々は、広い道や高い家、簡単に光が届く場所を求めました。



でも、古い場所には、時間と手入れ、耳をかす心が必要です。



路地は静かになりました。中庭のおしゃべりはささやきになり、やがて思い出になりました。



それでも、ヤシの木は残りました。



パルマ・リッジーナの伝説

7・長い待ち時間

足音のない雨の日が過ぎ、名もない季節がめぐりました。

笑い声のない夏も過ぎました。ヤシの木は見守り続けました。

ヘリオスは、いつものように毎日かならず戻ってきました。

ここにいるよ。

でも、その光をむかえる人は、だんだん少なくなりました。

私たちの物語は、まだここにある。

ヤシの木は、ある秘密を知っていました。

だれかがもう一度見てくれたら、何も失われない。

待っていたのは人々でした。太陽は一度も、戻るのをやめなかったのです。

パルマ・リッジーナの伝説

8・カレイドがやってきた

何年もたって、建築の設計事務所「カレイド」がやってきました。

何かを変える前に、まず立ち止まり、この場所を知ろうとしました。

こんなにたくさんの物語を守ってきたんだね！

石とヤシの木を大切にしながら、修復の計画を立てました。

少しずつ、中庭はまた息をし始めました。

また、耳をかしてくれる人がいる。

そしてカレイドは、歌う水を運んできました。滝です。

その歌は、命を呼び戻す声でした。

聞いて……
何かが戻ってくるよ。

パルマ・リッジーナの伝説

9・中庭がオアシスに

水が石を伝って流れ、日かげはオアシスになりました。



水とともに、足音も、まなざしも、声も戻ってきました。



人々はお客として入り、耳をすませました。



壁たちには分かりました。命が戻ってきた音です。



緑が広がりました。地中海も、自分が夢の世界でもあることを思い出したようでした。



ヤシの木は、葉っぱの見張り番として、同じ場所で空を指し続けました。



パルマ・リッジーナの伝説

10・一人ひとりの物語

今ここを訪れ、静かにしていると、四つの声が聞こえます。

覚えていて。

ヘリオスは毎日、短い間でも、かならず戻ってきます。

さがして。

水は石の間で歌います。

ゆっくりね。

ヤシの木は空に向かって葉を広げます。

かがやいて。

そして中庭が、石の笑顔でささやきます。

Cu' veni cca,
porta 'na storia.
Cu' si nni va,
nni lassa n'autra.

ここに来る人は、物語を一つ持ってくる。
去る人は、別の物語を一つ残していく。



パルマ・リッジーナの伝説

PALMA RIGGINA

オルティージャの水と記憶から生まれたおとぎ話。石の
声やふしぎなできごとは、伝説の世界のお話です。

制作

企画・文・漫画への脚色

編集・デザイン

Cool Dreams® Ortigia

イラストは人工知能（AI）のツールを
使って制作しました。

お話の言葉を知ろう

アレトゥーサ：オルティージャの象徴となっている、水の精と泉の名前。

オルティージャ：シラクーサの古い町を中心を守る島。

ヘリオス：ギリシャ神話の太陽の神。

Cuttigghiu（クッティッギウ）：シチリアの言葉で、中庭やおし
ゃべりのこと。このお話では、物語になるやさしい声のこと。

カレイド：建物の修復と新しい姿への改修を手がけた建築
設計事務所。

デジタル版・2026年9月

© 2026 Cool Dreams® Ortigia

無断転載・複製を禁じます。

